

連携先世界遺産： 真言宗御室派 総本山仁和寺 訪れたくなる、仁和寺 仁和寺の魅力を「私たち」同世代と共有する

・世界遺産仁和寺を「若者」にアピールする ・仁和寺の空間と時間、文化財を体感してもらう ・「祈りの場」「救いの場」としての意義を再発見する

■受講生

泉 あめり（京都光華女子大学・健康科学部・1年生）、氏平 菜花（京都光華女子大学・キャリア形成学部・1年生）、里村 美羽（京都光華女子大学・キャリア形成学部・1年生）、中野 寧々（立命館大学・政策科学部・4年生）、橋本 将秀（立命館大学 経済学部・2年生）、福田 美月（京都光華女子大学・キャリア形成学部・1年生）、藤澤 早那（京都光華女子大学・キャリア形成学部・1年生）

■担当教員

朝比奈 英夫（京都光華女子大学・キャリア形成学部・教授） 大島 祥子（同・キャリア形成学部・准教授） 佐藤 嘉洋（同・キャリア形成学部・講師） 土居 淳子（同・キャリア形成学部・教授）

活動目的・概要

洛北、双ヶ岡の北麓に壮大な伽藍を構える真言宗御室派の仁和寺は、建造物などの不動産だけでも、国宝、重要文化財のほか、登録有形文化財、国名勝・史跡など、バラエティに富んだ文化財を有する大寺院です。近年は、1泊100万円の宿泊で話題を集めた「松林庵」文化体験プログラムや紅葉のライトアップに特別な入場料を設定し写真愛好家を集めるなど、文化財を活用した先進的な企画を数多く発表しています。こうした動きは、昨年の文化財保護法の改正により、文化財のあり方を「保存」から観光に資する「活用」に舵を切った国の方針転換の延長線上に位置づけられます。様々な取り組みを行う仁和寺にスポットを当て、世界遺産としての魅力を掘り下げ、仁和寺が有する貴重な文化財の活用と保存にも注目して、持続可能な世界遺産という課題にも向き合います。今年度は、京都市などが公表している観光関係のデータ分析を行い、考察を深めます。授業は、教室での活動と現地の見学・ヒアリングで行い、文化財の活用を通じた京都の世界遺産寺院の「経営」戦略を学ぶ機会にしたいと思います。



◆主な活動

- | | |
|---|-------------------------------|
| 2022.4.10 御室桜見学 | 2022.10.8 京都観光関係データの活用基礎(演習) |
| 2022.5.14 世界遺産に関する学習 | 2022.10.16 京都観光関係データの活用実践(演習) |
| 2022.5.22 講義「仁和寺の文化財」
インタビュートレーニング | インタビュートレーニング |
| 2022.6.11 チーム編成 チームテーマ検討と絞り込み | 2022.10.22 プレゼン資料準備(演習) |
| 2022.6.26 仁和寺執行長(宗務総長) 大林實温先生
特別講義 「仁和寺の歴史とこれから」 | 2022.11.20 仁和寺にてプレゼン中間報告(演習) |
| 2022.9.3 京都観光関係データの紹介(講義) | 仁和寺 大石哲玄様からの講評 |
| | 2022.12.4 模擬発表 資料と内容の最終確認(演習) |
| | 2022.12.11 成果報告会 仁和寺様からの講評 |

活動の成果

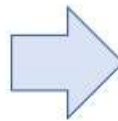
仁和寺の魅力を「私たち」同世代と共有する

私たちのプロジェクトの目的

特に知名度が低い若者をターゲットに
仁和寺のことを知ってもらい参拝者を増やす

仁和寺の課題

- ・ 知名度を上げる
- ・ 参拝者を増やす



若者

多くの若者に仁和寺の歴史や文化を知ってもらうにはどうすれば良い？
若者がたくさん来ることによる効果は何？ 経済効果？その他の効果は？

今回の提案の概要

今回の提案のツール

期待される動き・展開

拡散力のあるSNSの活用

TikTok (動画)

Instagram (写真)

(従来) ※今回採用しない

- 「映える」写真の拡散
- 共感と承認欲求の充足
- 行動様式として定着

(若年層を中心に定着)

- 訪問の動機として有効に機能
- 新しいことに果敢に挑戦する仁和寺への親近感、交流の契機
- 訪問と交流を通じて祈りの場、癒やしの場としての気づき

活動を振り返って

始めはこの科目が何を学ぶ科目なのかも分からず、オンデマンドだと思い履修をしました。しかし蓋を開けてみると、オンデマンドでなく、少し大変だけど取ってしまったものは仕方ないと思うことにしました。仁和寺さんとの連携ということで、今までは知らなかった仁和寺さんの魅力や概要について学ぶことができました。この教科だからこそその経験がたくさんできたと思います。（泉 あめり）

この授業を通して仁和寺の歴史を知ることが出来ました。普段なら知ることがないからこそこの授業を通して良い経験をする事が出来ました。この経験を活かして日本の歴史に触れてみたり、違う事にも役立たせていきたいです。（氏平 菜花）

この授業を通して、仁和寺の歴史について深く知ることができました。仁和寺はたくさんの方が長い年月をかけて手入れしているからこそ、こんなに価値のあるものが残っているのだということがわかりました。また、仁和寺は周りの風景があるからこそその文化財であり、本当に大切にされているんだということがわかりました。（里村 美羽）

今までの授業を振り返って、最初は仁和寺について京都に住んでいたのにも関わらず、全然知りませんでした。しかし授業を通して仁和寺の歴史や魅力を知り、さらに発展する方法を考えることで新たな知識を得ることができました。古くから守られてきたものの大切さなど知ることができて良かったです。（福田 美月）

この授業を通して、初めは聞いたこともなかった仁和寺でしたが、実際に足を運んだり、お坊さんのお話を聞くことで仁和寺について知ることが出来ました。どうしたら若者に仁和寺が浸透するのか、という問いに対しグループ全体で取り組むことができました。（藤澤 早那）

担当教員からのコメント

今年度は、京都光華女子大学と立命館大学の学生が合同でプロジェクトを進めてきました。授業開始時点では仁和寺へ行ったことがないメンバーも多い状態でしたが、何度も現地に足を運んだことで多くの気づきがあったようです。また、仁和寺だけではなく、夏休みには他の世界遺産を各自で調査・見学する取り組みを行い、世界遺産に関する幅広い学びができたものと思います。

メンバーが考えた提案は、ショート動画を使って仁和寺の魅力を発信しようという、現代の若者らしさに溢れた意欲的なものでした。授業時間の関係で、実際に動画を撮影する、発信するなどの具体的な取り組みまでには及びませんでしたが、この授業をきっかけにメンバーが自主的な情報発信の主体となってくれることを期待しています。（佐藤嘉洋）

活動資料

仁和寺について学んだこと

仁和寺の印象	<ul style="list-style-type: none"> ・広い寺・桜が綺麗 ・日がよくあたる
朝川美幸さんの講演	<ul style="list-style-type: none"> ・過去から受け継がれたものを未来に継承 ・国宝、守ってきた歴史を大事にしている ・文化財の保護と展示の両立の難しさ ・地域や参拝者の方を大事にしている
大林執行長のお話	<ul style="list-style-type: none"> ・仁和寺が持つ歴史と宗教を伝えていく意味と意義 ・文化の継承と祈りの場
大石課長との意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が気軽に参拝できる場所 ・国宝や継承された文化を知る場 ・観光地だがテーマパークではない



仁和寺での大林執行長から仁和寺の歴史や文化財、役割についてお話をいただき、国宝の金堂も案内いただきました。

学生たちが仁和寺についてよく知らない状態からのスタートでしたが、関係者の方々からの丁寧なレクチャーを受け、さらに自分たちで他の世界遺産との比較を行うなど、多くの学びを得ることができました。

今回は、仁和寺が課題とされている一つの「若い人の拝観者を増やす」に着目し、学生ならではの提案を考えることにしました。私たち世代が情報収集に活用するショート動画を利用、その効果を検証する方法を提案しました。

実施するためには体制や費用等、さらに検討と構築しなければいけないと仁和寺大石課長から指摘を受けましたが、提案の方向性としては評価いただきました。



仁和寺の新しく整備された空間で、大石課長に中間報告。提案へのコメントや的確なアドバイスをいただきました。



緊張した中間報告を終え、記念撮影。